

しんきんJPX日経400オープン

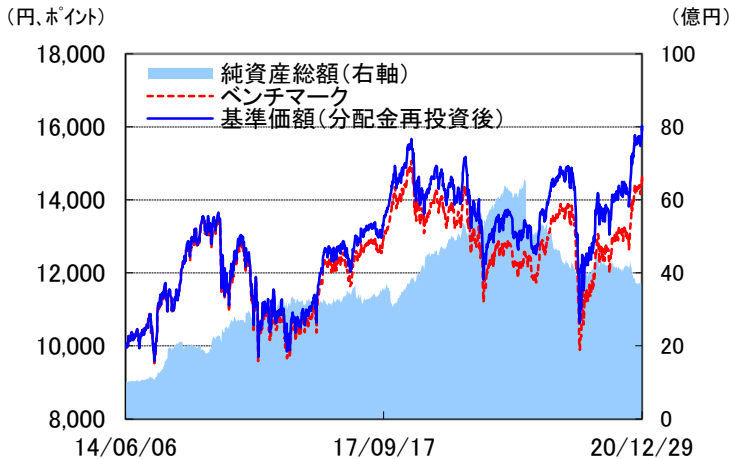
追加型投信／国内／株式／インデックス型

作成基準日

2020年12月30日

月次

基準価額・純資産の推移



※ 基準価額(分配金再投資後)は、決算日の翌営業日に分配金を非課税で再投資したものと計算しています。基準価額は信託報酬控除後の価額です。信託報酬率については、後記の「ファンドの費用・税金」をご覧ください。

※ ベンチマークはJPX日経インデックス400、2014年6月6日を10,000として指数化

分配金実績(税引き前・1万口当たり)

設定来合計	910 円	
直近	2020/06/05	280 円
1 期前	2019/06/05	0 円
2 期前	2018/06/05	220 円
3 期前	2017/06/05	230 円
4 期前	2016/06/06	0 円
5 期前	2015/06/05	180 円
6 期前		円
7 期前		円

ファンドの特色

- JPX日経インデックス400の動きに連動する投資成果を目指して運用を行います。
- 運用はファミリーファンド方式の形態で行います。

ファンド概要

基準価額	14,856円
既払分配金(設定来)	910円
純資産総額	3,639(百万円)
設定日	2014年6月6日
償還日	2028年6月5日
決算日	毎年6月5日 (休業日の場合、翌営業日)

資産種類別投資比率

作成日現在の組入比率

銘柄名	投資比率
1 しんきんJPX日経400マザーファンド*	100.00%
2 現金・その他	0.00%
3	

運用経過(ファンドの基準価額と期間別騰落率、ベンチマークの値と期間別騰落率)

		基準価額		JPX日経インデックス400	
		(円)	騰落率(%)	(ポイント)	騰落率(%)
作成日	2020/12/30	14,856	-	16,341.80	-
1ヶ月前比	2020/11/30	14,483	2.58	15,954.48	2.43
3ヶ月前比	2020/09/30	13,288	11.80	14,617.28	11.80
6ヶ月前比	2020/06/30	12,691	17.06	14,049.87	16.31
1年前比	2019/12/30	14,028	8.16	15,376.38	6.28
3年前比	2017/12/29	14,425	6.84	16,074.10	1.67
設定来		10,000	59.02	11,246.40	45.31

※基準価額の騰落率は、分配金(税引き前)を再投資し計算しています。

◆当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするためにしんきんアセットマネジメント投信が作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
 ◆当資料は、当社が作成日現在において信頼できると判断したデータ・情報に基づいて作成したものです。記載内容は事前の予告なく訂正することがあります。正式な記載内容については投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。◆当資料の運用実績等に関するグラフ・図表・数値・その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。◆分配金の実績は過去のものであり、運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。◆当資料のコメントは、作成日現在での当社の見解であり、市場変動や個別銘柄の将来の変動等を保証するものではありません。事前の予告無く将来変更する可能性もあります。◆当ファンドの受益権の基準価額は、同ファンドに組み入れられている有価証券等の値動きによる影響を受けませんが(その他外貨建有価証券には、為替リスクがあります。)、これらの運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。したがって、預金と異なり元本が保証されているものではありません。◆当ファンドは、保険契約ではなく、保険契約者保護機構の補償対象ではありません。◆当ファンドは、預金保険の対象ではありません。また、金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。◆当ファンドのお申し込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受け取りいただき、詳細についてご確認の上、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。



設定・運用は、

しんきんアセットマネジメント投信(株)

追加型投信／国内／株式／インデックス型

作成基準日

2020年12月30日

月次

ご参考:しんきんJPX日経400マザーファンドの状況

●組入上位10銘柄

銘柄名	業種	投資比率 (%)
1 ソニー	電気機器	1.70
2 ソフトバンクグループ	情報・通信業	1.66
3 日本電信電話	情報・通信業	1.64
4 キーエンス	電気機器	1.59
5 日本電産	電気機器	1.57
6 信越化学工業	化学	1.54
7 トヨタ自動車	輸送用機器	1.53
8 第一三共	医薬品	1.46
9 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	1.46
10 ダイキン工業	機械	1.45

●組入上位10業種

業種	投資比率 (%)
1 電気機器	17.57
2 情報・通信業	7.91
3 化学	7.75
4 医薬品	6.66
5 機械	5.95
6 輸送用機器	5.63
7 サービス業	5.51
8 小売業	4.66
9 卸売業	4.65
10 銀行業	4.39

※ 銘柄数: 399

●資産構成比

	投資比率 (%)
国内株式(現物)	97.71
国内株式(先物)	1.98
現金・その他	0.31

○「JPX日経インデックス400」は、株式会社日本取引所グループおよび株式会社東京証券取引所(以下総称して「JPXグループ」という。)並びに株式会社日本経済新聞社(以下「日経」という。)によって独自に開発された手法によって算出される著作物であり、「JPXグループ」および「日経」は、「JPX日経インデックス400」自体および「JPX日経インデックス400」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。「JPXグループ」および「日経」は、「JPX日経インデックス400」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。本商品は、投資信託委託業者等の責任のもとで運用されるものであり、「JPXグループ」および「日経」は、その運用および本商品の取引に関して、一切の責任を負いません。



追加型投信/国内/株式/インデックス型

作成基準日

2020年12月30日

月次

市場動向

12月の株式市場は、高値圏でもみ合いの中、年末にかけてしっかりした動きになりました。欧米で新型コロナウイルスワクチンの接種が年内にも始まることへの期待から、底堅い展開となりました。ワクチンの供給懸念から一旦上げ幅を縮小しましたが、英国でワクチン接種が始まったことを受け、世界的な経済活動の正常化への期待から、高値圏での推移となりました。その後は、米国の追加経済対策をめぐる与野党協議の難航や高値警戒感から、国内株は米国株とともに売りが優勢になる場面がありましたが、米国でもワクチンの接種が始まり、景気回復への期待が広がったことや、米国の金融緩和政策が長期化するとの見方から買いも入り、高値圏でもみ合いが続きました。新型コロナウイルスの変異種の発生や米国の追加経済対策をめぐる協議の不透明感は重しになりましたが、その後は英国の欧州連合(EU)離脱をめぐる通商協議が合意に至ったことや米国追加経済対策法案が成立したことを好感し、JPX日経インデックス400は高値圏で引けました。

JPX日経インデックス400(12月末終値): 16,341.80 ポイント (前月末比 + 387.32 ポイント)

運用経過

追加設定および解約に合わせて、マザーファンドでTOPIX先物の売買を行ったほか、指数除外となる「NTTドコモ」を売却しました。また、マザーファンドのキャッシュ比率低下に伴い、現物株の売却と先物買建ての同時取引を行った他、先物をロールオーバーしました。

当月は、JPX日経インデックス400が2.43%上昇する中で、基準価額の騰落率は2.58%の上昇となりました。基準価額の騰落率は、主に、12月決算銘柄の配当金がファンドに計上されたことにより、JPX日経インデックス400を上回りましたが、この影響を除くと、ほぼJPX日経インデックス400に連動した運用を行うことができました。

市場見通し

1月の株式市場は、高値圏での一進一退の動きを予想します。英国に続き米国でもワクチンの接種が開始され、コロナ克服への期待が高まっている一方、内外で感染拡大に歯止めがかかっていないことに加え、英国で新型コロナウイルスの変異種がまん延していることは懸念材料です。他方、米国の大統領選では民主党のバイデン氏が勝利し、米国の政局への不安は後退していますが、上院、下院ともに民主党が制するのかは、1月5日のジョージア州の上院選決選投票で決まります。共和党が上院を制し、ねじれ議会になると、政策の実現が難航することも想定されます。ただ、この場合には民主党が主張する法人税増税などへの懸念は後退しそうです。欧州中央銀行(ECB)が資産購入を拡大、米連邦準備制度理事会(FRB)がゼロ金利政策を2023年末まで継続する見通しを維持し、米国債などを買入れる量的緩和策の長期化を示唆したことは安心材料です。米国の追加経済対策への期待も内外の株価の押し上げ材料ですが、景気、企業業績のV字回復やワクチンの早期実用化を前倒しで織り込んで米国株は過去最高値を更新、国内株も日経平均株価が27,000円台を回復するなど大きく上昇しており、高値への警戒から利益確定売りが広がることには注意が必要です。

運用方針

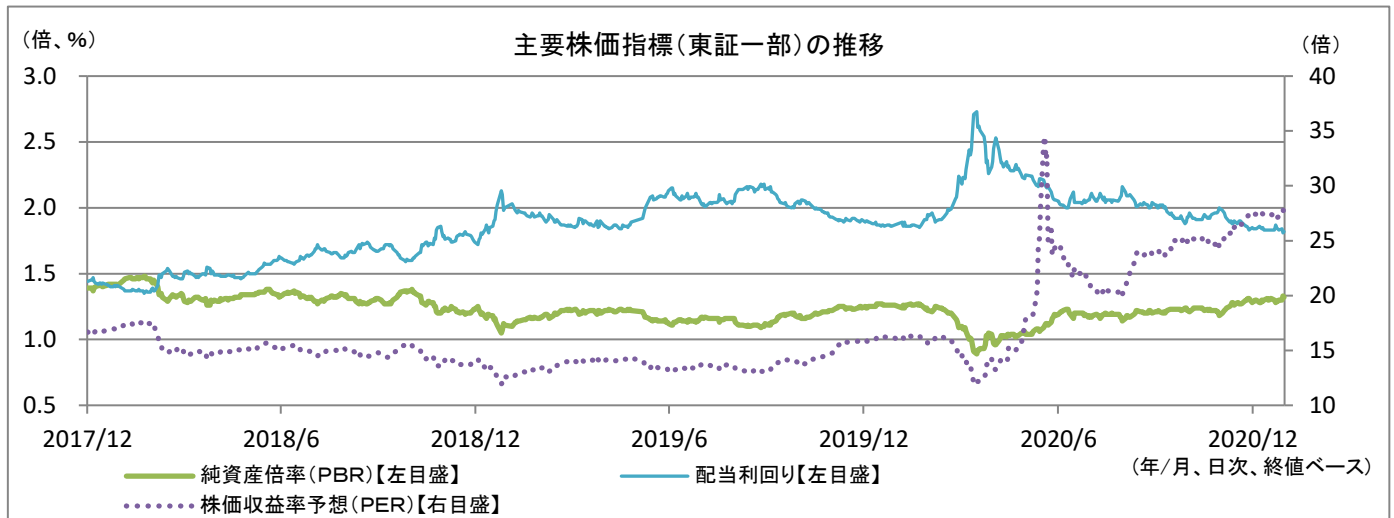
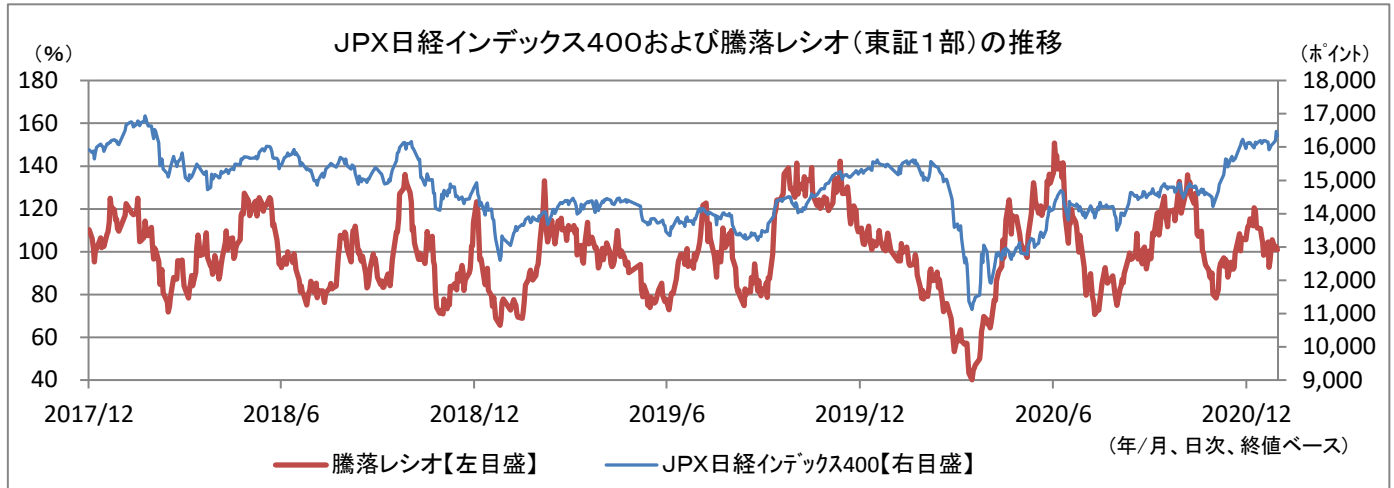
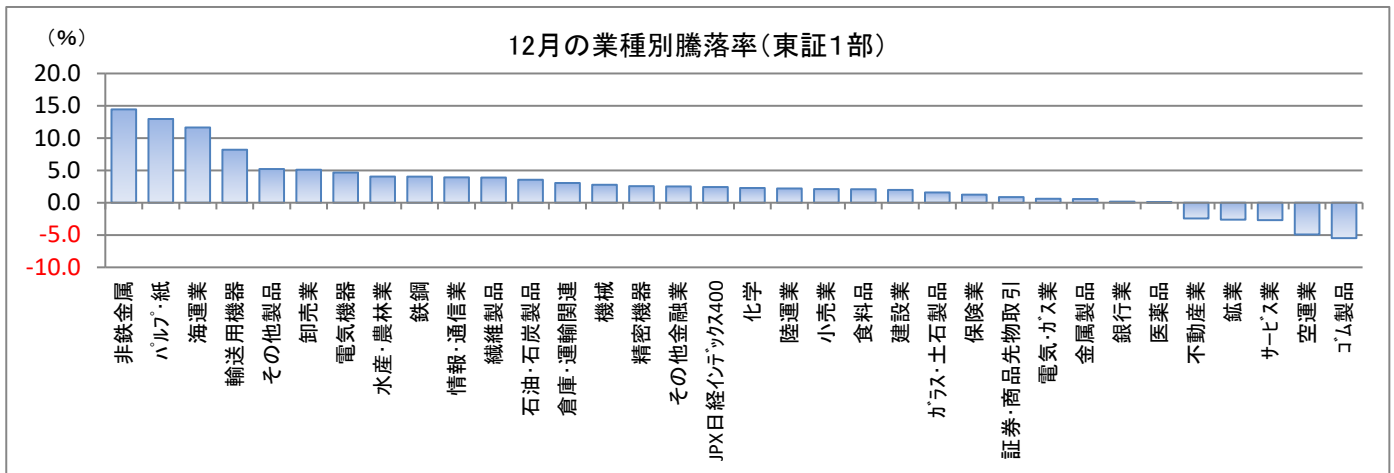
引き続き、JPX日経インデックス400の動きに連動させることを目指して運用を行います。



設定・運用は、

しんきんアセットマネジメント投信(株)

市場動向(ご参考)



(出所) Bloombergよりデータ取得し、しんきん投信作成

※ 上記は、当ファンドが投資対象とする資産や市場の値動きおよび特性をご理解いただくためのものであり、ファンドの運用実績とは異なります。
 ※ 上記のグラフ・図表・数値・その他いかなる内容も過去のものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
 ※ 上記は、ファンドの利回りとは異なります。また、過去のものであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。



追加型投信/国内/株式/インデックス型

作成基準日

2020年12月30日

月次

お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	1口単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額(信託財産留保額はありませぬ。)
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して4営業日目以降にお支払いします。
申込締切時間	毎営業日の午後3時(この時刻までに販売会社所定の事務手続きが完了している必要があります。)
換金制限	ありませぬ。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入および換金の申込受付を中止することがあります。
信託期間	14年(当初設定日:2014年6月6日 償還日:2028年6月5日)
繰上償還	委託会社は、受益権の総口数が10億口を下回ることとなった場合、この信託を償還することが投資者のために有利であると認めるとき、対象インデックスが改廃のとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、受託会社と合意のうえ、この信託を償還することがあります。
決算日	毎年6月5日(休業日の場合、翌営業日)です。
収益分配	年1回の決算日に、収益分配方針に従って収益分配を行います。収益分配金は自動的に再投資されます。収益分配金をお受け取りになる場合は、事前に販売会社所定の手続きが完了している必要があります。
信託金の限度額	2,000億円とします。
公告	日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	交付運用報告書は、決算日および償還日を基準に作成し、基準日に保有している投資者に販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 ・公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 ・配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。 ※税法の改正によって変更される場合があります。

ファンドの費用・税金

＜ファンドの費用＞

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入金額に応じて、購入価額に1.10%(税抜1.0%)を上限に販売会社が個別に定める手数料率を乗じて得た額を購入時にご負担いただきます。
信託財産留保額	ありませぬ。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬)	純資産総額に対して、年率0.66%(税抜0.6%)	運用管理費用は、計算期間を通じて毎日計算され、毎計算期間の最初の6か月終了日および毎計算期間末、または信託終了のときに投資信託財産から支払われます。
(委託会社)	純資産総額に対して、年率0.25%(税抜)	
(販売会社)	純資産総額に対して、年率0.30%(税抜)	
(受託会社)	純資産総額に対して、年率0.05%(税抜)	
その他費用・手数料	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する費用および有価証券売買時の売買委託手数料等は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。 ※「その他費用・手数料」は、運用状況等により変動するものであり、事前に料率・上限額等を表示することができません。	

※当ファンドの手数料等の合計額については、投資者がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ファンド監査の費用は、委託会社が受け取る信託報酬より支払われます。

＜税金＞

■税金は表に記載の時期に適用されます。

■以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税および地方税	・配当所得として課税 * 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時および償還時	所得税および地方税	・譲渡所得として課税 * 換金(解約)時および償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

* 所得税、復興特別所得税および地方税が課税されます。

※上記は、作成基準日現在の情報をもとに記載しています。税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。

※少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」および未成年者少額投資非課税制度「愛称:ジュニアNISA(ニーサ)」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。

※法人の場合は上記と異なります。

※税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。



設定・運用は、
しんきんアセットマネジメント投信(株)

追加型投信／国内／株式／インデックス型

作成基準日

2020年12月30日

月次

委託会社その他関係法人の概要

委託会社 ファンドの運用の指図を行います。

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第338号

加入協会／ 一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

受託会社 ファンドの財産の保管及び管理を行います。

三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)

当ファンドに関してのお問い合わせ

しんきんアセットマネジメント投信株式会社

<コールセンター> (受付時間) 営業日の9:00~17:00

フリーダイヤル 0120-781812 携帯電話・PHSからは 03-5524-8181

<ホームページ> <https://www.skam.co.jp>

販売会社 受益権の募集の取扱い、受益者に対する収益分配金、解約代金、償還金等の支払い等を行います。

・信金中央金庫 (指定登録金融機関) 登録金融機関 関東財務局長(登金)第258号 加入協会／日本証券業協会

・信用金庫 (取次登録金融機関)

取次登録金融機関は信金中央金庫との契約に基づき、受益権の募集の取扱いの取次ぎ、受益者に対する収益分配金、解約代金、償還金等の支払いの取次ぎ等を行います。

ご投資にあたっての留意点

「しんきんJPX日経400オープン」は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではありません。ファンドの運用による利益および損失は、すべて投資者に帰属します。

投資者のみなさまにおかれましては、投資信託説明書(目論見書)をよくお読みいただき、当ファンドの内容・リスクを十分にご理解のうえお申込くださいますよう、よろしくお願ひします。

<基準価額の変動要因>

価格変動リスク	株価は、政治・経済情勢、発行体の業績、市場の需給等を反映して、短期的・長期的に大きく変動します。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
信用リスク	有価証券等の発行体が経営不安、倒産等に陥った場合、またその可能性が高まった場合には当該発行体が発行する有価証券および短期金融商品の価格は下落し、場合によっては投資資金が回収できなくなることもあります。組入有価証券等の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となります。
流動性リスク	流動性リスクとは、有価証券を売買する際に、需給動向により有価証券を希望する時期・価格で売買することができなくなるリスクをいいます。当ファンドが投資する有価証券の流動性が損なわれた場合には、基準価額が下落する要因となります。

※ 上記の変動要因は主なもののみであり、上記に限定されるものではありません。

<その他の留意点>

■ 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(クーリング・オフ)の適用はありません。



設定・運用は、

しんきんアセットマネジメント投信(株)

追加型投信／国内／株式／インデックス型

月次

目論見書のご請求、お申込については、下記の販売会社にお問い合わせのうえご確認ください。

信用金庫(取次登録金融機関)一覧

No.	信用金庫名	区分	登録番号	加入協会
1	郡山信用金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第31号	
2	桐生信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第234号	
3	足利小山信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第217号	
4	栃木信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第224号	
5	水戸信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第227号	
6	結城信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第228号	
7	青木信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第199号	
8	飯能信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第203号	
9	横浜信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第198号	日本証券業協会
10	川崎信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第190号	日本証券業協会
11	中南信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第195号	
12	朝日信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第143号	日本証券業協会
13	足立成和信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第144号	
14	城北信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第147号	日本証券業協会
15	多摩信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第169号	日本証券業協会
16	のと共栄信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第30号	
17	福井信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第32号	
18	浜松磐田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第61号	
19	いちい信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第25号	
20	瀬戸信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第46号	日本証券業協会
21	半田信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第62号	
22	豊川信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第54号	
23	北伊勢上野信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第34号	
24	桑名三重信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第37号	
25	京都中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第53号	日本証券業協会
26	奈良信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第71号	日本証券業協会
27	大和信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第88号	日本証券業協会
28	姫路信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第80号	日本証券業協会
29	兵庫信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第81号	日本証券業協会
30	尼崎信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第39号	日本証券業協会
31	西中国信用金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第29号	
32	愛媛信用金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第15号	
33	福岡ひびき信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第24号	日本証券業協会
34	大牟田柳川信用金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第20号	
35	熊本第一信用金庫	登録金融機関	九州財務局長(登金)第14号	
36				
37				
38				
39				
40				
41				
42				
43				
44				
45				
46				
47				
48				
49				
50				

No.	信用金庫名	区分	登録番号	加入協会
51				
52				
53				
54				
55				
56				
57				
58				
59				
60				
61				
62				
63				
64				
65				
66				
67				
68				
69				
70				
71				
72				
73				
74				
75				
76				
77				
78				
79				
80				
81				
82				
83				
84				
85				
86				
87				
88				
89				
90				
91				
92				
93				
94				
95				
96				
97				
98				
99				
100				

注1. 上記信用金庫に関する情報は、作成基準日現在です。

注2. 上記信用金庫は、登録金融機関である信金中央金庫の取次登録金融機関です。

注3. 一部掲載していない信用金庫がある場合があります。

注4. 上記信用金庫では、一部お取扱いのない店舗があります。

